



令和4年4月15日

永福学園通信

第1号

東京都立永福学園
校長 緒方 直彦



本年度の初めに当たって



本年度から都立永福学園第4代校長として着任しました緒方直彦と申します。よろしくお願いたします。

東京都立永福学園は、平成19年4月に、高等部就業技術科を設置する学校として開校し、その後、平成21年度から肢体不自由教育部門が設置され、肢・知併置校となりました。就業技術科においては、1学年100人の募集定員を設け、生徒全員の企業就労を目標に専門的な職業教育を行う学校として、全国に先駆けた新たなタイプの特別支援学校として開校以来、多くの企業関係者等と連携し、着実に企業就労を通じた自立と社会参加に関して成果をあげてきました。また、肢体不自由教育部門においても、教員だけでなく看護師や介護の専門家等が、それぞれの専門性を生かし、児童・生徒へのチーム・アプローチによるきめ細かな指導・支援を行うため、全都のモデルとなる取組を行い、現在もその成果を生かした教育が展開されています。このように、本校は、全国及び全都において特別支援教育における先進的な取組を推進してきました。引き続き、教育活動の充実を図るとともに、今後は様々なツールを活用して、保護者や都民の方々に本校の教育実践に関する情報の発信を強化してまいります。本校は、肢体不自由教育部門（小・中学部、高等部）と高等部就業技術科が併置された学校です。そこで、両教育部門の実践等について、毎月テーマを決めて本学園通信で紹介いたします。できましたら忌憚のない御意見や御感想をいただければ幸いです。さて、私が着任して、両教育部門の児童・生徒や教職員に話をした内容を紹介します。本校の校訓は「誠心誠意」です。意味は「真心をもって様々なことに当たること」です。私は、校長として、校訓である「誠心誠意」と共に、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉も意識してほしいことを併せて伝えました。時を守るとは、時間を守るだけではなく、決められたことや約束等を確実に果たすということ、場を清めるとは、教室や活動した場所等を整理・整頓し、清掃して清潔にすること、礼を正すとは、挨拶をきちんとするだけでなく、相手を尊重して行動するという話をしました。私も児童・生徒及び教職員のロールモデルになるよう努めてまいります。この言葉が実践されているか、本校にお越しの際に、確認していただければ幸いです。最後になりますが、今後とも本校の教育活動に関して、御理解・御協力よろしくお願い申し上げます。

校長 緒方 直彦



お知らせ



今年も大勢の教職員の異動がありました。異動者（転出）及び本年度の学級編制等については、後日、ホームページに保護者専用のページを設けて掲載いたします。その際に必要なパスワード等は、マチコミでお知らせいたします。今しばらくお待ちください。



One school!! One team!!



就業技術科と肢体不自由教育部門の紹介

【就業技術科】

就業技術科では、高等部3年間で、将来社会人として生活していくために必要な知識や技能を身に付け、周りの人と良い人間関係を築き、豊かに生きることができる判断力や態度を身に付けられるように、学習を積み重ねています。4月6日の入学式では、3年生の代表生徒から「私たちは社会に貢献できる人になることを目標にしています。一緒に頑張りましょう。」というメッセージが新生生に贈られました。

職業に関する専門教科の5つのコースでは、先生たちの名刺作り、防災倉庫の備蓄物品入替、介護施設での補助業務、来客へのコーヒーサービス、そして肢体不自由教育部門校舎内の廊下・流しの清掃なども行っています。そのたびに、「ありがとう」と言われることが励みになり、次の学習への意欲につながっています。

生徒たちの中には、入学時には自分のよいところが分からなかったり、人間関係についての苦手意識をもっていたりして、心配な表情で緊張しながら校内を歩いている姿もあつたりします。3年の間には、いいこともよくないこともあります。毎日の積み重ねの中で、私たち教員が振り返るときその成長ぶりにいつも驚かされています。

校歌の一節に「技を磨く誇らしさよ 大きく高く」とあります。卒業を迎える頃には、生徒一人一人が学んできたことに自信と誇りをもち、次のステージへと巣立っていきます。

就業技術科、肢体不自由教育部門、大塚ろう学校分教室、たくさんの児童・生徒がにぎやかに過ごす校舎には、いつも元気な挨拶の音が響いています。今年度も一年間、仲よく笑顔で、共に学んでいきましょう。どうぞよろしくお願いします。

就業技術科主幹教諭 土田 律子

【肢体不自由教育】

新生生45名を迎え全校児童・生徒数121名となり、肢体不自由教育部門開校以来、最大人数で令和4年度がスタートしました。児童・生徒の学校生活を支える専門職として、授業を主に行う教員と、授業の補助や専門的な介助に携わる学校介護職員がいます。また、医療的ケアを必要とする児童・生徒の健康の維持・管理に対応できるよう看護師が従事するなど、専門的な知識や経験をもった様々な職種の協働によって、教育活動を進めています。

教育のカリキュラムの特色として教科指導の礎となる「自立活動」を時間割に設定しています。「自立と社会参加」に必要な認識の向上、身体機能の維持・増進及びコミュニケーション力などを培います。

特別活動である行事では、移動教室や修学旅行、運動会、社会見学、校外学習などを計画しています。今年度こそ、新型コロナウイルス感染拡大が終息し、全ての行事が実施できるように願っております。

また、部活動では中学部・高等部の希望生徒を対象とした「スポーツ競技部」があります。土曜日を利用し年間で30日間程度練習に取り組み、陸上競技、ボッチャやハンドサッカーの大会に出場しています。

「自立と社会参加」に向けて、「いつでも どこでも だれとでも ○○ができるようになる」ことを目標にして、家庭・学校・行政・医療・地域等が連携をしながら、小学部入学時から高等部卒業までの12年間とおして、計画的・継続的な学びを積み重ねていきます。

肢体不自由教育部門主幹教諭 池田佳信

東京都立永福学園

○就業技術科

副校長 山崎 裕之
教務主幹教諭 土田 律子

○肢体不自由教育

副校長 秋本 友美 小松 弘喜
教務主幹教諭 池田 佳信

〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号

電話 03-3323-1380

ファクシミリ 03-3323-1381

ホームページ

<http://www.eifuku-sh.metro.tokyo.jp>